

教育民生常任委員会

9月11日から4日間、決算議案7件、陳情9件の審議及び所管の事務調査を行った。

(診療所)

各診療所の現状

名和診療所は、平成20年度末、山脇所長が2年目となり交代となる予定。受診件数は増えているが、利益率は減となっている。

大山口診療所は黒字であるが、リハビリセンターは赤字となっている。

大山診療所は、医師が交代し、介護病棟は閉鎖となる。

起債償還が始まっており、赤字幅が増大している。

(福祉保健課)

外出支援サービス

19年度は、106人の利用者があった。

さらに、広報等で周知を図って行く。

(住民生活課)

環境衛生

旧大山環境美化センターの解体工事については、19年度に、ダイオキシンの検査等も終わり、12月の補正予算にあげて、来年度着手することになった。

寺子屋

旧庄内小学校の校舎を利用しての事業である。不登校児童、生徒に対して学校への復帰を支援している。19年度は、8人の通学者があった。

(教育委員会)

幼児の食育、栄養指導

保育士と連携し、子どもと保護者に対して継続的な食育事業を推進した。



完了した名和中耐震補強工事

委員会現地視察報告

◆◆◆平成20年9月19日◆◆◆

9月19日、委員会のメンバー7人は耐震工事が行われた大山中学校、名和中学校を始め、6施設を視察した。

所子保育所と高麗保育所の過密ぶりに驚き、あらためてその対策が急がれることを確認した。



元気いっぱいの子供たち

また、大山診療所においては、新しく来られた田中医師と面談する機会を持った。

専門は、血液循環器系であり、心電図については、最新の医療機器が備えられている。



大山診療所長田中医師と懇談

医師の話によると、特に病氣予防に力を入れたということ、現在使

われていない2階病棟の有効利用を検討中との考えを聞いた。